

柵が設置できない圃場と圃場整備の問題を解決した広域柵

にっぺら 大河原町新寺地区



対象
獣種

イノシシ

地区の概要

- ・ 42 世帯 110～120 名。
- ・ 新寺生産組合は農家 28 軒 41 名、非農家 13 軒 19 名。
- ・ 数年後に圃場整備を控えており、圃場整備後の対策と、それまでの間の対策方法を考えたい。
- ・ 圃場整備は令和 7 年度に工事を開始予定だが、新寺地区が何年度に着工するかは未定。

取り組み前の状況

● 環境

- ・ ほぼ平坦で見通しが良い圃場が一面に広がっている。
- ・ 周囲を囲む山際に住宅や畑がある。
- ・ 一部の住民は住宅周辺の管理意識が高く、見通しが良かった。
- ・ 圃場の一部では畦畔がなく、舗装道路や U 字溝などに接しているために電気柵の設置が困難な箇所があった。圃場に設置せずに集落全体を囲うように設置する方法もあるが、道路からの侵入を防ぐ方法や維持管理、合意形成など確認すべき事項は多い。



平坦な圃場地帯



管理された山際



畦畔がない圃場

● 被害と対策

- ・ これまでは、水稻や大豆、枝豆、ジャガイモ、カボチャなどの農作物被害があったが、令和 4 年度は被害がない。
- ・ 地区内では、電気柵やトタン柵、ワイヤーメッシュ柵、ネット柵など、様々な資材を使った対策がされていたが、ビニールひもで囲っただけの圃場もあった。
- ・ イノシシの生態や対策方法について学ぶ機会はなかった。
- ・ 地区には狩猟免許所持者がいない。



跳び越えやすい電気柵



トタン柵



ビニールひも

取り組み内容

ワークショップ① 対策の基本と地域課題の共有

生態や対策の基本などについての座学研修を開催。事前の調査で、隣の^{しんかい}新開地区にも畦畔がない圃場があったことから、隣地区の住民にも参集範囲を広げ、地域課題として共有した。

隣地区の住民も参加！



新開地区の畦畔がない圃場

集落点検

ワークショップ② 集落点検マップ作成と対策案の検討

- 被害状況や移動経路、誘引物などの現状を把握するために集落内を点検。
- 7月の事前調査時には痕跡がほとんど見られなかったが、11月の集落点検時には掘り起こし等が目立つようになり、住民の意識が変わった。
- 現地で記録した情報を地図に落とし込み、集落点検マップを作成。現状を共有した。



集落点検の様子（柿の木）



圃場の掘り起こし



作成した集落点検マップ

ワークショップ③ 対策計画の作成

- 当初は圃場整備後に電気柵を設置する予定であったが、圃場周りに柵の設置幅が確保しにくいこと、山際は設置が可能な地形環境であること、イノシシの出没が増えてきたことなどから、圃場整備前の令和6年度の設置に向けて広域柵を設置する計画となった。
- まずは、被害の多い東側の設置から始め、その後は効果を観察しながら、反対側の山際や、北側への延長を検討することに。
- 令和6年度の設置に向けたスケジュールを、表を用いながら住民と大河原町で確認した。

全体計画図（図中の距離は地形の起伏などを考慮していない）



スケジュールの確認

成果と取り組みのポイント

✔ 広域柵（集落柵）の長所が地域課題の解決に適していた

- 圃場と道路の間に畦畔がなく、柵の設置幅が確保できない圃場が多い。
 - 圃場整備を控えているが、早急に対策をしたい。しかし、撤去や再設置をしたくない。
- こうした2つの課題があった中で、山際に設置する広域柵（集落柵）のメリットを最大限に受けられる条件であった。

✔ 秋は鳥獣被害対策を考えやすい季節

秋は被害情報が集まり、柿や栗などが実るため環境がわかりやすいことから合意形成が図りやすく、また、農閑期に入るため地域の負担感が小さい。研修会などを開催するのもに適した季節である。